



JP361090584A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 61090584 A

TITLE: PROJECTION-TYPE DISPLAY DEVICE

PUBN-DATE: May 8, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HIMURO, MASAMI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SONY CORP	N/A

APPL-NO: JP59211843

APPL-DATE: October 9, 1984

INT-CL (IPC): H04N005/74, G02F001/03, H04N009/31

ABSTRACT:

PURPOSE: To improve the utilization factor of light from a light source by converting one polarizing surface among an S polarizing component L∫ and P polarizing component LP, both of which are obtained from a polarizing beam splitter, into the other polarizing surface with the use of a $\lambda/2$ optical phase plate and setting their synthetic light beams to the illumination light of a light valve.

CONSTITUTION: A total reflection prism 18 is disposed at the side where the P polarizing component of the polarizing beam splitter 7 is obtained through the reflection. The P polarizing component LP is reflected orthogonally against the total reflection prism 18 and projected in the same direction as the S polarizing component LS obtained by passing through the polarizing beam splitter 7. Light paths of the S polarizing component LS obtained in such a way and the S polarizing component LS* converted by the $\lambda/2$ optical phase plate 19 are changed in each optical path, and synthesized so as to coincide at the prescribed position P<SB>0</SB>. The synthetic light of the S polarizing components LS and LS* is made flux having a narrow band-like flattening section extending in the horizontal direction with the aid of a semicylindrical lens 8, and supplied to a line light valve 10 as illumination light.

COPYRIGHT: (C)1986,JPO&Japio

⑪ 公開特許公報 (A) 昭61-90584

⑤Int.Cl.
H 04 N 5/74
G 02 F 1/03
H 04 N 9/31

識別記号 行内整理番号
7245-5C
D-7448-2H
8321-5C 審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

⑥発明の名称 投射型ディスプレイ装置

⑦特願 昭59-211843
⑧出願 昭59(1984)10月9日

⑨発明者 水室昌美 東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー株式会社内
⑩出願人 ソニー株式会社 東京都品川区北品川6丁目7番35号
⑪代理人 弁理士伊藤貞 外1名

明細書

発明の名称 投射型ディスプレイ装置

特許請求の範囲

ライトバルブを使用した投射型ディスプレイ装置において、光源からの光を偏光ビームスプリッタに供給して第1のS偏光成分及び第1のP偏光成分を得ると共に、上記第1のS偏光成分または第1のP偏光成分を $\frac{1}{2}$ 光学位相殺により第2のP偏光成分または第2のS偏光成分に変換し、上記第1及び第2のS偏光成分の合成光または上記第1及び第2のP偏光成分の合成光を上記ライトバルブの照明光とすることを特徴とする投射型ディスプレイ装置。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、ライトバルブを使用した投射型ディスプレイ装置に関するものである。

〔従来の技術〕

投射型ディスプレイ装置として、第6図に示すようにラインライトバルブを使用した装置が提案

されている。

同図において、(1)は光源で発光部(2)及び反射器(3)を有している。発光部(2)には、例えばキセノンアークランプが用いられ、また反射器(3)は可視光を反射し、熱線を通過せしめるものとされる。

光源(1)からの光は、熱線を反射し、可視光を通過させる熱線反射板(4)を通過してコンデンサレンズ(5)に供給され、平行光束とされる。このコンデンサレンズ(5)からの光は、絞り板(6)を通過して偏光子を構成する偏光ビームスプリッタ(7)に供給され、所定の偏光面を有する偏光、即ちS偏光L_Sのみが通過して得られる。この偏光ビームスプリッタ(7)からの偏光は、カマゴコ形レンズ(8)に供給され、水平方向に伸びる細帯状の偏光断面を有した光束とされた後、透明支持板(9)に支持されたラインライトバルブ(10)に照明光として供給される。このラインライトバルブ(10)は、例えばPLZT電気光学セラミック材よりなり、512光弁で形成され、カマゴコ形レンズ(8)より供給される細帯状の偏光断面の光束に対して各光弁部分で矢々所定角度だけ

偏光面が回転させられる。

このラインライトバルブ側で所定角度だけ偏光面が回転させられた光は、縮小レンズ側を通過し垂直方向に偏向走査せしめる可動ミラー側で光路変更された後、フィールドレンズ側を通過して検光子を構成する偏光ビームスプリッタ時に供給され、上述ラインライトバルブ側における偏光面の回転角度に対応した量だけ通過させられる。

この偏光ビームスプリッタからの光は、投射レンズ側でスクリーン(図示せず)に投射される。

また、第6図において、 α_{B} は制御回路部で、その入力端子(16_a)には映像信号 S_V が供給される。そして、ラインライトバルブ側の512光弁は、映像信号 S_V の各水平期間内の512点のサンプル信号で順次駆動され、夫々の光弁部分がその信号内容に応じた角度だけの偏光面の回転を生ぜしめるよう、映像信号 S_V の水平周期に同期して制御される。また、ミラー駆動部側が制御され、可動ミラー側が映像信号 S_V の垂直周期に同期して偏向走査動作を行なうようにされる。

バルブの照明光とするものである。

【作用】

偏光ビームスプリッタより得られるS偏光成分 L_S 及びP偏光成分 L_P の双方とも照明光として利用されるので、光源からの光の利用率が改善される。

【実施例】

以下、第1図を参照しながら本発明の一実施例について説明しよう。本例は、第6図に示すようなラインライトバルブを使用したアイスプレイ装置に適用した例である。この第1図において第6図と対応する部分には同一符号を付し、その詳細説明は省略する。

第1図は、垂直方向より見た図である。同図において、偏光ビームスプリッタ(7)のP偏光成分が反射して得られる側には全反射プリズム側が配され、P偏光成分 L_P はこの全反射プリズム側で直角に反射して偏光ビームスプリッタ(7)を通過して得られるS偏光成分 L_S と同一方向に射出される。また、全反射プリズム側の射出側には $\frac{1}{2}$ 光学位相

以上の構成から、この第6図に示すアイスプレイ装置によれば、スクリーン上に映像信号 S_V による画像を得ることができる。

【発明が解決しようとする問題点】

この第6図に示すアイスプレイ装置においては光源(1)からの光のうち、偏光ビームスプリッタ(7)を通過して得られるS偏光成分 L_S のみ照明光として利用され、光源(1)からの光のうちS偏光成分 L_S と直交する偏光面を有するP偏光成分 L_P は偏光ビームスプリッタ(7)で反射され、照明光として利用されていない。従つて、この第6図に示すアイスプレイ装置によれば、光源(1)からの光の利用率が50%以下と少ない欠点があつた。

そこで、本発明は光源からの光の利用率の改善を図るものである。

【問題点を解決するための手段】

本発明は上述問題点を解決するため、偏光ビームスプリッタより得られるS偏光成分 L_S 及びP偏光成分 L_P の一方の偏光面を $\frac{1}{2}$ 光学位相板を用いて他方の偏光面に交換し、これらの合成光をライト

板側が配され、全反射プリズム側より射出されたP偏光成分 L_P はこの $\frac{1}{2}$ 光学位相板側によりその偏光面が 90° 回転され、S偏光成分 L_S^* に変換される。また、偏光ビームスプリッタ(7)及び $\frac{1}{2}$ 光学位相板側の前面には夫々光路変更用のクサビ形レンズ(アリズム)側及び側が配され、偏光ビームスプリッタ(7)を通過して得られるS偏光成分 L_S 及び $\frac{1}{2}$ 光学位相板側で変換されたS偏光成分 L_S^* は夫々光路変更され、所定位置 P_0 で一致するように合成される。

また、ラインライトバルブは、所定位置 P_0 より手前に配され、さらに、このラインライトバルブ側の手前にカマボコ形レンズ(8)が配される。そして、S偏光成分 L_S 及び L_S^* の合成光は、カマボコ形レンズ(8)で水平方向に伸びる細帯状の偏平面を有した光束とされて、ラインライトバルブ側に照明光として供給される。

また、本発明には直接関係しないが、本例において、制御回路部側は、例えば、第2図に示すように構成される。この第2図において、第1図と

対応する部分には同一符号を付して示している。

第2図において、入力端子(16a)に供給される映像信号 S_V は映像増幅回路 α を介して同期分離回路 β に供給される。この同期分離回路 β より得られる垂直同期信号 P_V は偏向制御回路 γ に供給され、この偏向制御回路 γ によりミラー駆動部 δ が制御され、可動ミラー δ (第6図参照)が映像信号 S_V の垂直周期に同期して偏向走査動作を行なうようになる。

また、同期分離回路 β より得られる水平同期信号 P_H は発振器 ϵ に基準信号として供給され、この発振器 ϵ より例えば $1024f_H$ (f_H は水平周波数)の周波数信号が得られ、これがサンプルパルス発生器 η に供給される。そして、サンプルパルス発生器 η には64の出力端子 O_1, O_2, \dots, O_{64} が設けられ、これら夫々の出力端子 O_1, O_2, \dots, O_{64} より、1水平期間(1H)を64期間に分割した夫々の終りのタイミングのサンプルパルス $SP_1, SP_2, \dots, SP_{64}$ (第3図Bに図示)が得られる。尚、第3図Aは水平同期信号 P_H を示している。

の光弁の信号電極に供給される。

また、サンプルパルス発生器 η の出力端子 O_1 に得られるサンプルパルス SP_1 は、FET T_1, T_2, \dots, T_8 のゲートに供給され、これらFET T_1, T_2, \dots, T_8 はこのサンプルパルス SP_1 のタイミングでオンとされる。また、出力端子 O_2 に得られるサンプルパルス SP_2 は、FET $T_9, T_{10}, \dots, T_{16}$ のベースに供給され、これらFET $T_9, T_{10}, \dots, T_{16}$ はこのサンプルパルス SP_2 のタイミングでオンとされ、以下同様に、出力端子 O_3, O_4, \dots, O_{64} に得られるサンプルパルス $SP_3, SP_4, \dots, SP_{64}$ は、夫々8個単位のFETのゲートに供給され、8個単位のFETは夫々サンプルパルス $SP_3, SP_4, \dots, SP_{64}$ のタイミングでオンとされる。

従つて、ラインライトバルブ η の光弁 L_1, L_2, \dots, L_8 の信号電極には、FET T_1, T_2, \dots, T_8 を夫々介して映像信号 S_V の各水平期間信号のうち、水平同期信号 P_H からサンプルパルス SP_1 までの $\frac{1}{64}$ 水平期間($\frac{1}{64}H$)に含まれる8つのサンプル信号 S_1, S_2, \dots, S_8 が供給される。また、ライン

また、第2図において、映像増幅回路 α より得られる映像信号 S_V は、 γ 補正回路 β 、時間調整用の遅延回路 γ を介して遅延線 δ に供給される。この遅延線 δ には8個のタップ P_1, P_2, \dots, P_8 が設けられ、タップ P_1 には映像信号 S_V の現在の信号が得られると共に、タップ P_2, P_3, \dots, P_8 には順次 $\frac{1}{512}$ 水平期間($\frac{1}{512}H$)ずつ前の信号が得られる。タップ P_1, P_2, \dots, P_8 は夫々アンプ(30₁), (30₂), ..., (30₈)に接続され、これらアンプ(30₁), (30₂), ..., (30₈)より得られる信号は、夫々電界効果形トランジスタ(以下FETという) T_1, T_2, \dots, T_8 のドレイン-ソースを介して、第4図に示すように512個の光弁 L_1, L_2, \dots, L_{512} よりなるラインライトバルブ η の光弁 L_1, L_2, \dots, L_8 の信号電極に供給される。また、アンプ(30₁), (30₂), ..., (30₈)より得られる信号は、夫々FET $T_9, T_{10}, \dots, T_{16}$ のドレイン-ソースを介して光弁 $L_9, L_{10}, \dots, L_{16}$ の信号電極に供給され、以下同様にアンプ(30₁), (30₂), ..., (30₈)より得られる信号は、順次ラインライトバルブ η の8個

イトバルブ η の光弁 $L_9, L_{10}, \dots, L_{16}$ の信号電極には、FET $T_9, T_{10}, \dots, T_{16}$ を夫々介して映像信号 S_V の各水平期間信号のうち、サンプルパルス SP_1 から SP_8 までの $\frac{1}{64}$ 水平期間に含まれる8つのサンプル信号 S_1, S_2, \dots, S_{16} が供給され、以下同様にしてラインライトバルブ η の光弁 L_1, L_2, \dots, L_{512} の信号電極にはサンプル信号 $S_{17}, S_{18}, \dots, S_{512}$ が供給される。そして、ラインライトバルブ η の512個の光弁 L_1, L_2, \dots, L_{512} は、夫々信号 S_1, S_2, \dots, S_{512} で駆動される。

制御回路部 δ をこのように構成するものによれば、ラインライトバルブ η の各光弁 L_1, L_2, \dots, L_{512} の信号電極への信号を8個ずつ並列サンプリングするので、順次サンプリング方式に比べサンプリング周波数を低くでき、例えばシフトレジスタより構成されるサンプルパルス発生器 η のシフトレジスタ段数を著しく低減でき、部品点数及び消費電力を大幅に少なくすることができます。また、タップ P_1, P_2, \dots, P_8 を利用してデジタル信号[1,0]を順次供給し、ラインライトバルブ η の各

光弁 L_1, L_2, \dots, L_{812} をデジタル信号で駆動することも容易に可能となる。

第1図に示すように構成された本例によれば、偏光ビームスプリッタより得られる8個光成分 L_s 及びP偏光成分 L_p の双方ともラインライトバルブの照明光として利用されるので、光源(1)からの光の利用率が改善される。また、本例のように、ラインライトバルブの所定位置 P_0 より手前に配置することにより、縦横比の極端に大きいラインライトバルブの照明を8個光成分 L_s 及び L_s^* の共鳴でカバーすることになり、画面明るさを小さくでき、従つて偏光ビームスプリッタ(7)等に寸法の小さなものを利用でき、安価に構成できる利益がある。また、本例の場合、8個光成分 L_s 及び L_s^* は内屈折条件となるので、クサビ形レンズの角の設定により、所定位置 P_0 を縮小レンズ(11)(第6図参照)の入射瞳中心に設定することにより、フィールドレンズ効果を持たせることができ有効である。

次に、第5図は本発明の他の実施例を示すものであり、第1図と対応する部分には同一符号を付

上述実施例においては、偏光ビームスプリッタ(7)より得られるP偏光成分 L_p の偏光面を90°回転させ、8個光成分の合成光としたものであるが、この逆に偏光ビームスプリッタ(7)より得られる8個光成分 L_s の偏光面を90°回転させ、P偏光成分の合成光として利用することも考えられる。さらに上述実施例において、全反射プリズムの代りにミラーを用いてもよい。

【発明の効果】

以上述べた本発明によれば、偏光ビームスプリッタより得られる8個光成分 L_s 及びP偏光成分 L_p の双方ともライトバルブの照明光として利用されるので、光源の光の利用率が改善される。従つて、従来と同じ光源を用いるとすれば、スクリーン上に一層高輝度の画像を得ることができる。

図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例を示す構成図、第2図は制御回路部の具体構成図、第3図及び第4図は夫々その説明のための図、第5図は本発明の他の実施例を示す構成図、第6図は従来例を示す構

し、その詳細説明は省略する。

第5図例においては、クサビ形レンズの角及び角の手前に $\frac{1}{2}$ 光学位相板が配され、偏光ビームスプリッタ(7)を通過して得られる8個光成分 L_s 及び $\frac{1}{2}$ 光学位相板(8)で変換された8個光成分 L_s^* は夫々この $\frac{1}{2}$ 光学位相板(8)によりその偏光面が45°回転される。その他は、第1図例と同様に構成される。

この第5図例のように8個光成分 L_s 及び L_s^* の偏光面を45°回転させることにより、これらの偏光面がラインライトバルブの各光弁の印加電界と45°の角度をなすようになるので、ラインライトバルブにおいて最大偏光感度を得ることができる。

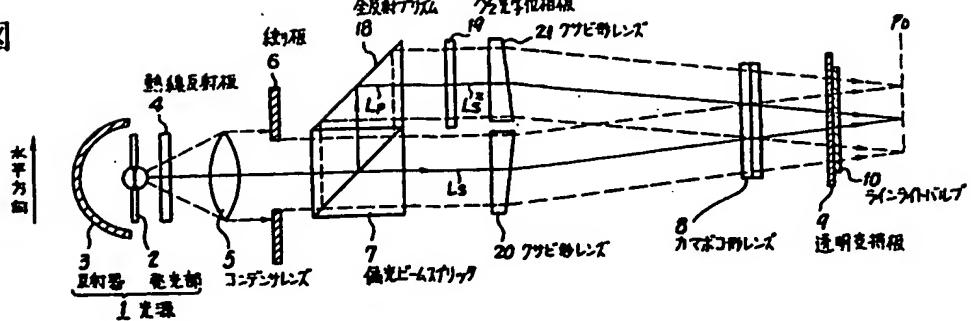
尚、上述実施例においては、ラインライトバルブを光が通過する透過型のものを示したが、ラインライトバルブより光が反射される反射型のものにも同様に適用することができる。また、上述実施例においては、ラインライトバルブの角を使用したものであるが、二次元のライトバルブを用いるものにも、同様に適用することができる。また

成図である。

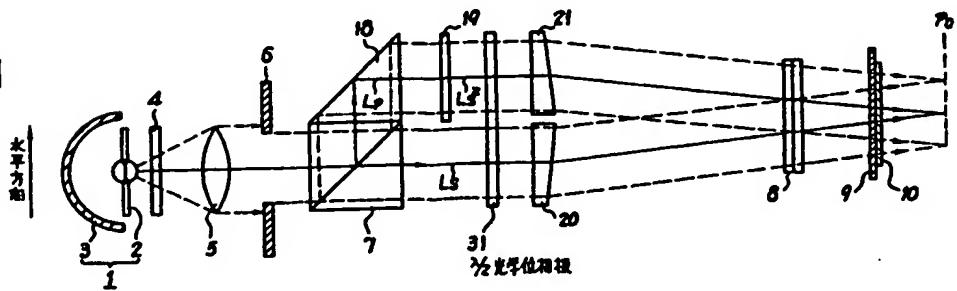
(1)は光源、(7)は偏光ビームスプリッタ、(8)はカマゴコ形レンズ、(9)はラインライトバルブ、(10)は全反射プリズム、(11)及び(12)は夫々 $\frac{1}{2}$ 光学位相板、(13)及び(14)は夫々クサビ形レンズである。

代理人 伊藤貞
同 松脇秀盛

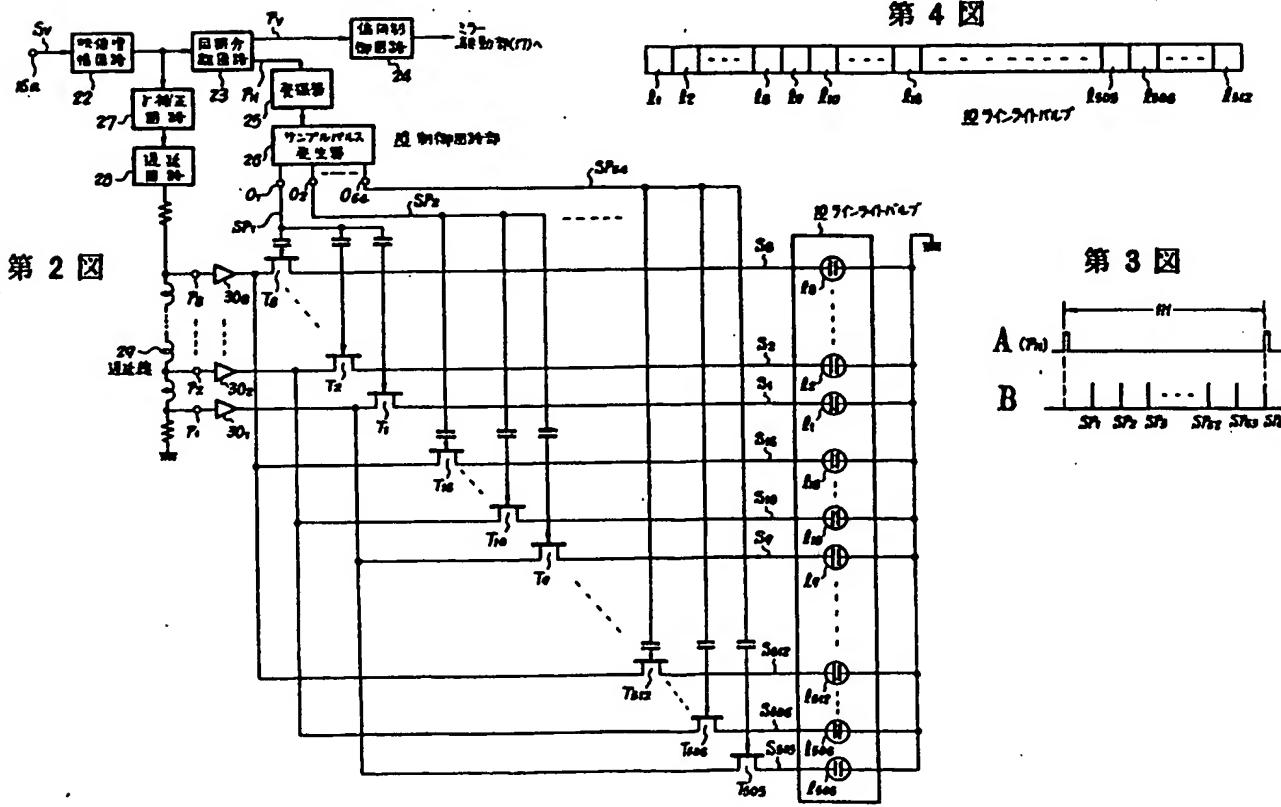
第1図



第 5 図

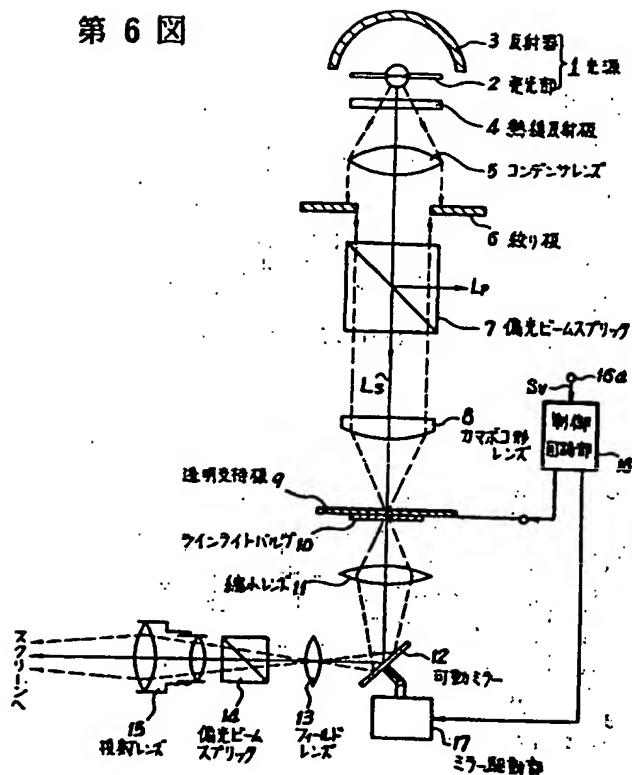


第4図



第3図

第6図



手続補正書

60年2月26日

特許庁長官 志賀 学



1. 事件の表示

昭和59年 特許 第211843号

2. 発明の名称

投射型ディスプレイ装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 東京都品川区北品川6丁目7番35号

名称 (218) ソニー株式会社

代表取締役 大賀典雄

4. 代理人

住所 東京都新宿区西新宿1丁目8番1号
TEL 03-343-5821 (新宿ビル)

氏名 (3388) 外國士官伊藤謙



5. 補正命令の日付 昭和 年 月 日

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象 明細書の各項の既録な説明の欄及び
図面

特許庁

8. 補正の内容



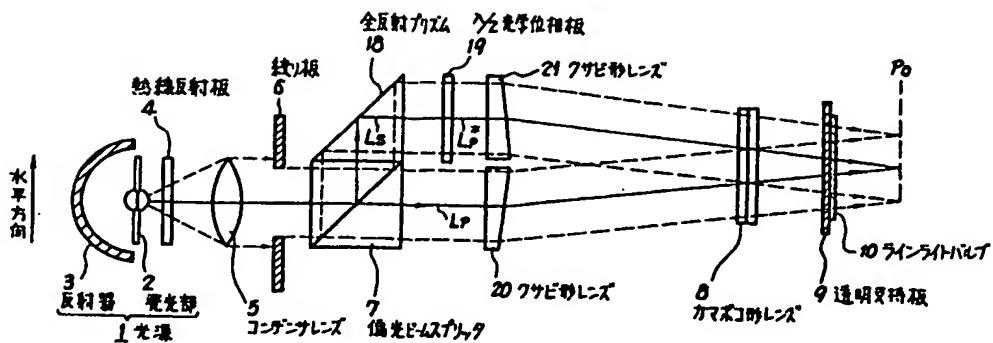
- (1) 明細書中、第2頁11行、第4頁7行、8行、第5頁19行、第6頁3行、7行、8行、14行、第11頁10行、14行、第12頁4行、5行、8行、第13頁3行及び4行「P」とあるを「P」に夫々訂正する。
- (2) 同、第2頁11行、第4頁7行、8行、第5頁19行、第6頁7行、14行、第11頁10行、14行、第12頁4行、8行及び第13頁5行「Ls」とあるを「Ls*」に夫々訂正する。
- (3) 同、第2頁20行「所定角度」の前に「映像信号に対応して」を加入する。
- (4) 同、第4頁9行、第5頁15行、17行、第6頁2行、第13頁2行及び5行「P」とあるを「S」に夫々訂正する。
- (5) 同、第4頁9行、第5頁17行、第6頁2行及び第13頁2行「Lp」とあるを「Ls」に夫々訂正する。
- (6) 同、第4頁10行「反射され」とあるを「45°反射され」に訂正する。
- (7) 同、第6頁3行、8行、14行、第11頁10行、

14行、第12頁5行及び8行「Ls*」とあるを
「Lp*」に夫々訂正する。

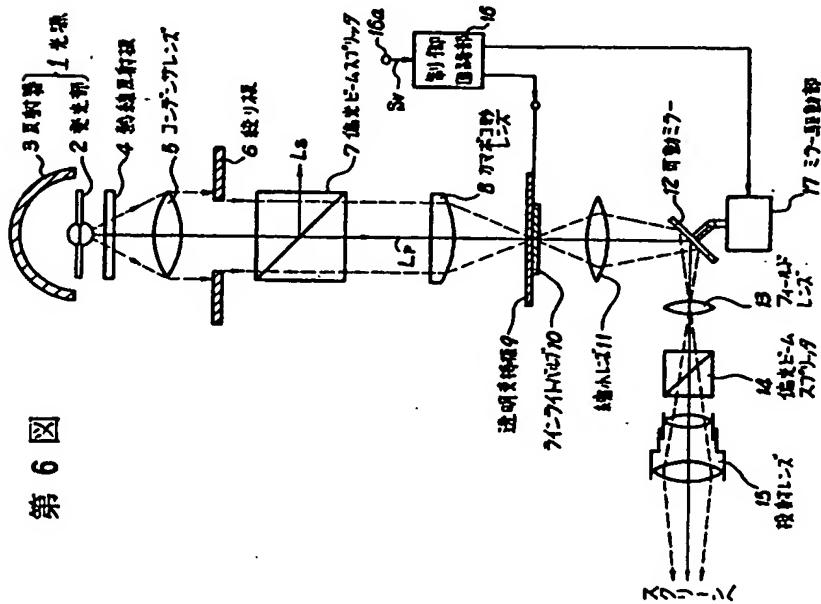
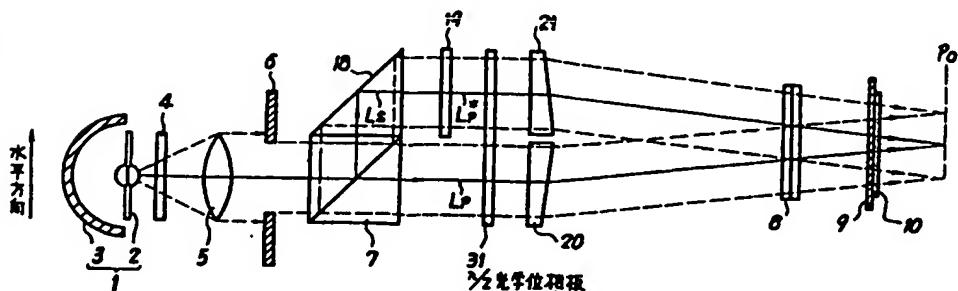
- (8) 図面中、第1図、第5図及び第6図を夫々別紙の通り訂正する。

以上

第1図



第5図



第6図